

# オンラインセミナーレポート

本プロジェクトは、生徒が実社会での課題の解決に向けて、大学や研究機関、企業、自治体等と連携しながら探究活動に取り組む機会を設定し、言語能力や情報活用能力、問題発見・解決能力を育むことをねらいとしており、4つの型を設定しています。

この度、「地域課題解決型」、「グローバル型」及び「アントレプレナー教育型」それぞれの探究活動を進める上で必要な知識・技能を学ぶオンラインセミナーを実施しました。

参加した生徒たちは、今後、各学校で探究活動に取り組み、来年（令和7年）1月に成果を発表します（成果発表会の開催）。成果発表会では審査を行い、上位チームは、来年2月1日（土）に開催する「探究チャレンジ・アジア」に参加する予定です。

社会との共創

地域課題解決型

グローバル型

アントレプレナー教育型

科学技術活用型

## 地域課題解決型オンラインセミナー

令和6年7月26日（金）開催  
18校、24チーム、105名参加

### 1 地域課題解決型のセミナーの概要

- 北海道大学岡田先生のワークショップでは、「地域課題の原因を減らして解消するのか、地域の長所を伸ばして地域課題の解決策につなげるのか」という方法から考え、未来予想図を描いて課題設定する演習を行いました。
- 酪農学園大学金本先生の講座では、課題の設定のために徹底的に情報収集する必要性等について学びました。
- 伊達開来高校は昨年度の「探究チャレンジ・ジャパン」における発表を踏まえ、2年目の活動内容やその検証結果について報告しました。
- 「あしたの学校」吉田先生の講座では、視座を意識的に上げたり下げたりする重要性の説明のほか、「探究学習する上で一番大切なのは、自分の人生だから、主語はいつでも『私』であること」など、参加した生徒への激励の言葉をいただきました。



伊達開来高校の発表紹介の様子  
(昨年度「探究チャレンジ・ジャパン」出場校)



北海道大学 岡田先生の講義の様子



酪農学園大学 金本先生の講義の様子



あしたの学校 吉田先生の講義の様子

### 2 参加生徒の声

#### (1) 各講義に取り組んだ感想

- ・ 色々な高校の地域の長所、短所を聞いたり、自分たちの町の課題点を発表したりでき、他の地域と比較することができた。
- ・ 正解を求めるのではなく、納得性や根拠を探して研究することが大切だと分かった。
- ・ 伊達開来高校の発表を聞いて、最後に結論で終わるのではなく、それに対しての課題をさらに考え、自分たちが主催して実践している点が、自分たちがこれから研究していく上で参考にできると思った。
- ・ 自分はこうしたい、こうなりたいと思うことがとても大切で、課題に気付くためには、自分の感覚や感情、些細な心の揺れに気付いて真摯に向き合っていくことが大切だと分かった。

## (2) 今後の探究活動に対する意気込みや期待していること

- ・自分が今までやってきた探究を振り返り、これから行う探究を楽しみながら行いたい。
- ・今日教わったことを活かして、住んでいる地域の課題を見つけて解決できるように、メンバーは3人しかいないけど、協力して地域の課題を解決するための取組をしていきたい。
- ・何度もトライアンドエラーを繰り返して、納得のいく探究活動を行いたい。

## グローバル型オンラインセミナー

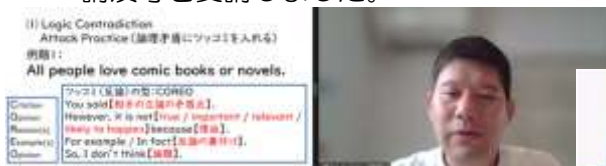
令和6年7月26日（金）開催  
10校、12チーム、45名参加

### 1 グローバル型のセミナーの概要

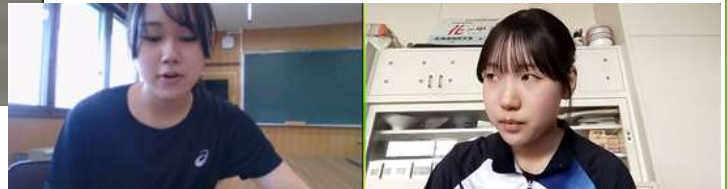
- 札幌国際大学人文学部国際教養学科中津川先生の講座では、英語を使うことで、アクセスできる情報量が増えることや、異なる国の問題や文化に関心を持ちグローバルな視点で探究することができることなどを学びました。
- 北海道教育委員会による「SDGsなどの地球規模の課題について英語で考える」のワークショップでは、生徒が教育の課題について資料を作成し、英語でプレゼンテーションする演習を行いました。
- 午後からは、「地域解決型」の参加生徒と一緒に、講演等を受講しました。



札幌国際大学 中津川先生の講義の様子



ワークショップにおける  
道教委からの説明の様子



ワークショップにおいて  
グループワークをしている様子

### 2 参加生徒の声

#### (1) 各講義に取り組んだ感想

- ・色々な人に広められる英語で探究活動をする事は、世界中の最新情報にアクセスできたり、国際的な視野を広げたりするため、とても大切であると感じた。
- ・短い時間で英語のスピーチやプレゼンを作って交流する活動の経験が今まであまりなかったので、刺激的でよい学びになった。
- ・実際に英語で話してみると、全く言葉が出てこなかったり、緊張して頭が回らなかったりと自分の英語能力の低さを痛感した。
- ・英語で情報（意見）を発信する能力や、英語で相手に自分の考えを伝える勇気を養えた。

#### (2) 今後の探究活動に対する意気込みや期待していること

- ・英語をベースにして探究活動を発表する機会はなかなかない経験だと思うので、まずは楽しむことを最優先に活動を行っていききたい。その次に自分の成長にもつなげていきたい。
- ・世界中の最新情報にアクセスし、グローバルな視野をもちながら、積極的に学び続けたい。
- ・私の今の実力でできる範囲で精一杯、地球規模の課題解決に向けた探究活動を行っていききたい。

## 1 アントレプレナー教育型のセミナーの概要

- はじめに、ネクストソサエティ株式会社 芝香講師が「課題の発見と解決策に取り組む考え方」と題して、新規事業や新商品を開発する際のステップについて講義を行いました。その中で、「まずはみんなが困っている課題にフォーカスして取り組むこと」や、「既に商品化されている場合でも、その商品で課題が解決されているか、足りないところはないかということ、について、諦めずに突き詰めてほしい」などの話がありました。
- ニトリホールディングスからは、会社の企業理念やビジネスモデルなど、会社の概要についての説明後、「ものづくり（製造）」、「ライブコマース」、「SDGs」の3つの課題の提示がありました。
- 昨年度の「探究チャレンジ・ジャパン」に出場した帯広柏葉高校からは、昨年度の実践である「ドリンクバー専門店」における、マネタイズのポイントや、高校生の課題と、地元事業者の課題を併せて解決する方策について説明がありました。



帯広柏葉高校の発表紹介の様子  
(昨年度「探究チャレンジ・ジャパン」出場校)



ネクストソサエティ株式会社 芝先生の講義の様子

## 2 参加生徒の声

### (1) 各講義に取り組んだ感想

- ・アイデアが出ても解決策へのつなげ方が分からなかったが、知ることができてよかった。
- ・ニトリグループでは、コスト削減の取組を企業全体で実行していることが分かった。
- ・紙に書き出すことで頭の中の考えが形になって整理できた。
- ・課題、顧客セグメント、独自の価値提案などを決めることで課題解決の手助けになってくれることが分かった。
- ・帯広柏葉高校の発表を聞いて、高校生で考えたことが実現して、すごいなと思った。また、勉強する場所がないことと、バイトの募集の広告の2つを課題にしたのが参考になった。

### (2) 今後の探究活動に対する意気込みや期待していること

- ・自分の追求できるところまで追求し、よいものを作っていきたい。
- ・企業と協力をして、よい結果を得られるように頑張りたい。
- ・実用的な考えを出し、地域や探究活動で連携する企業の人たちのために貢献したい。
- ・高校生らしく、色々な視点で物事を見て、課題の解決に迫ることができるよう頑張りたい。
- ・フレームワークを活用しながら課題を解決していきたい。
- ・自分たちでもものづくりをする予定なので、課題をしっかりと理解し、よりよい解決案を出していきたい。
- ・企業と連携して、自分たちが考える課題解決の方法を実現できるよう協力して頑張りたい。